

第2期小郡市スポーツ推進基本計画（案）

【令和7年2月17日】

1 計画策定の趣旨

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものです。（スポーツ基本法より）

また、スポーツを行うことで生まれる、人と人との交流は一体感や活力を醸成することに大きく役立っています。

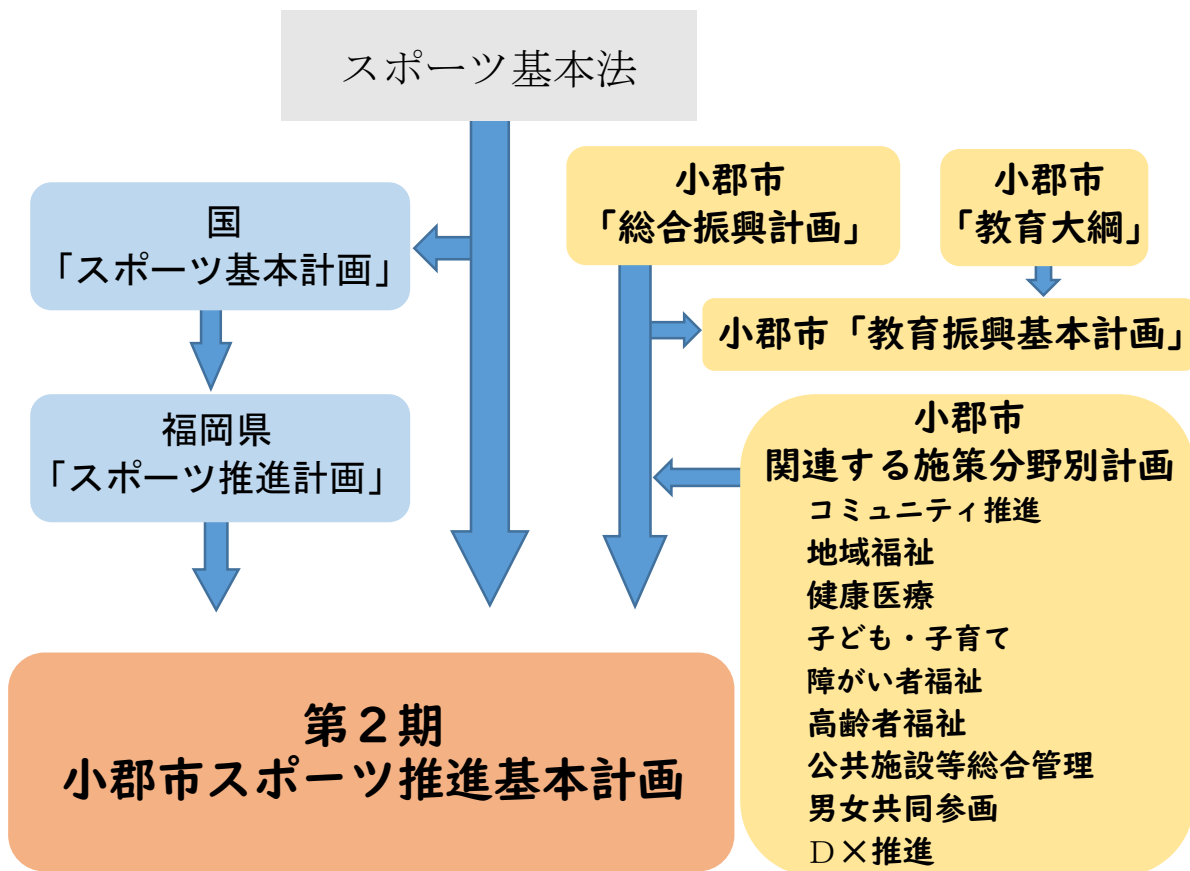
少子高齢化、情報化の進展、地域社会の空洞化、人間関係の希薄化など、日本の社会環境は第1期策定時よりもさらに大きく変化しています。そのため、青少年の健全育成や、健康管理・体力の維持増進だけでなく、地域のきずなづくり、健康な長寿社会の創造など、スポーツ・レクリエーション活動（企画・運営）が持つ役割は高まりつつあります。

本市においても、国や県のスポーツに関する様々な取組や方針を参考にしながら、競技性の高いスポーツだけではなく、市民の実態やニーズに合わせ、ウォーキングなどの体を動かす活動や遊びの要素を取り入れながら行われるレクリエーション活動も含めた「スポーツ」に関する計画を策定し、あわせてスポーツ施設の利用等に関する情報のデジタル化やスポーツができる環境整備を含めた整備計画を検討し策定していくものです。

2 計画の位置付け

本市が、スポーツの推進をとおして目指すべき姿を示すものであり、第1期の計画や現在の課題等を受けて、今後のスポーツの推進に係る施策の方向性を示す基本計画です。

競技性の高いスポーツだけでなく、幅広くスポーツ・レクリエーション活動を計画の対象とし、スポーツ基本法第10条の「地方公共団体が定めるスポーツの推進に関する計画」に該当するものとして、法の理念に則り、本市のまちづくりとの整合性を図ります。



3 計画の期間

令和7年度からの10年間とし、社会情勢の変化や総合振興計画など関連する計画との整合性に留意し、必要に応じて見直しを行います。

4 本市のスポーツに係る現状と課題

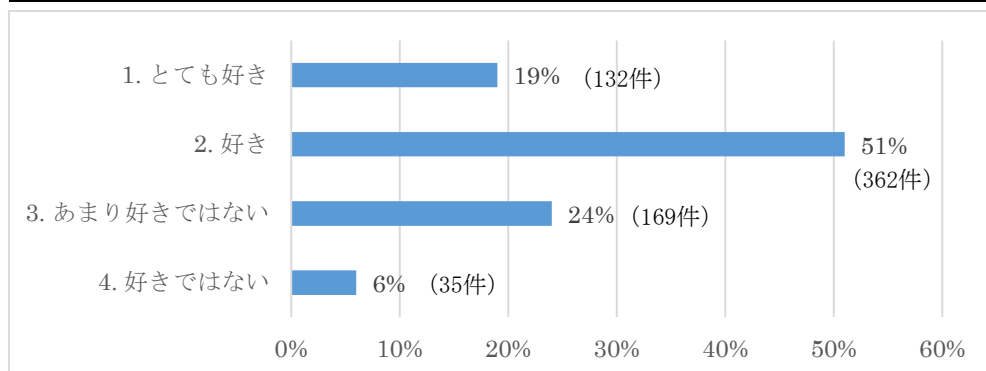
(1) 市民アンケートより

本市のスポーツに係る実態調査のため、16歳以上の市民2,000人を対象に令和5年度に市民アンケートを行いました。703人から回答があり（回答率35.2%）、その結果からうかがえる傾向は以下のとおりです。

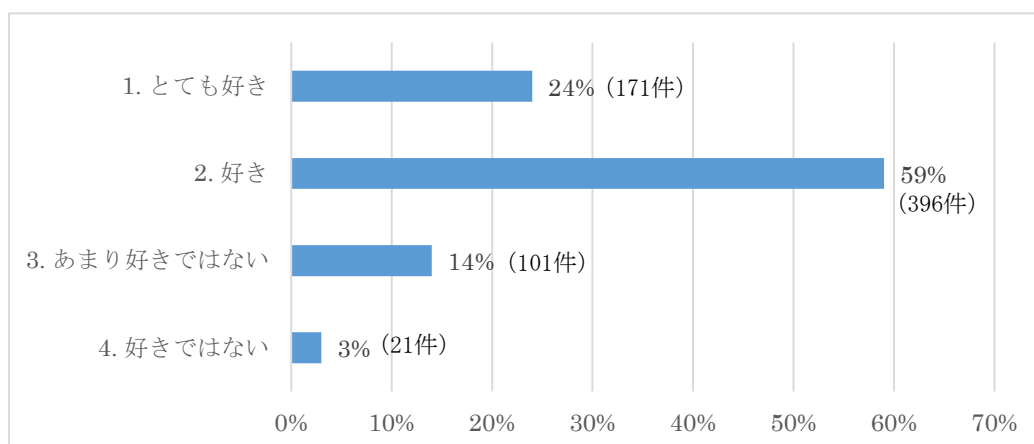
スポーツとの関係に関する傾向としては、回答者の7割以上が、スポーツ・運動を行うことまたはスポーツ観戦等に対して好意的な感情を持っていることがわかります。

スポーツ・運動を行っている人は、日常的にスポーツをしています。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置で様々な行事が中止される中で、自分自身の運動不足解消等の健康に対する意識が高まり、健康や体力の維持増進のために余暇活動として運動やスポーツを行っている人が多い傾向にあります。

アンケート問4. あなたは運動・スポーツをすることが好きですか？

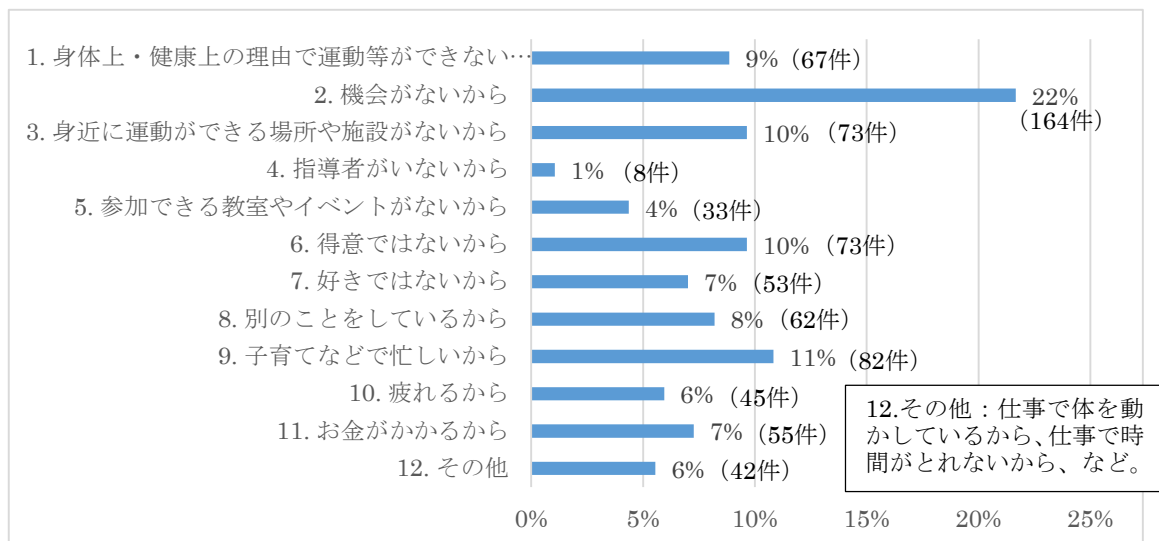


アンケート問5. あなたは運動・スポーツを観ることが好きですか？



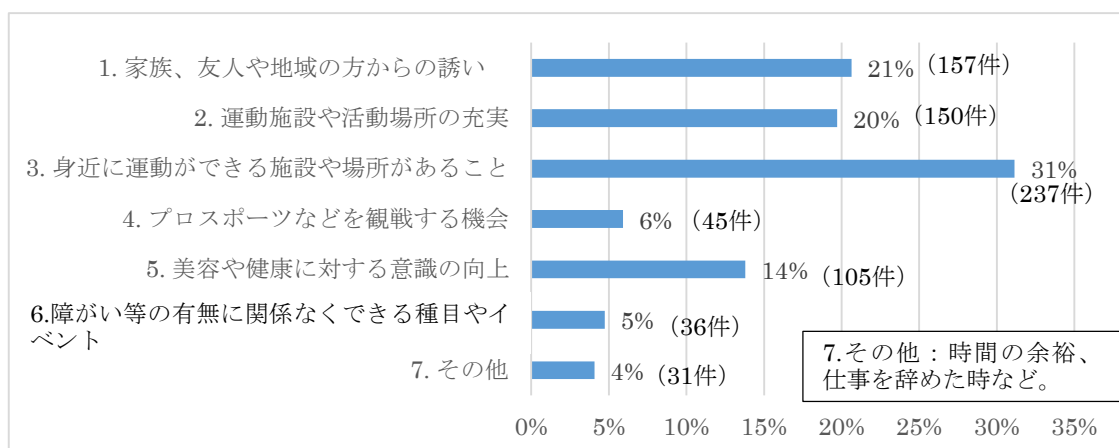
一方、スポーツを行っていない人の傾向としては、「機会がないから」との回答が最も多く、次いで「子育てなどで忙しいから」が多くなっており、意識はあるがスポーツや運動を行うきっかけが少ない等の要因でスポーツを行っていないことが分かります。

アンケート問 1 2. 運動・スポーツを行わない（行わなかった）理由は何ですか？



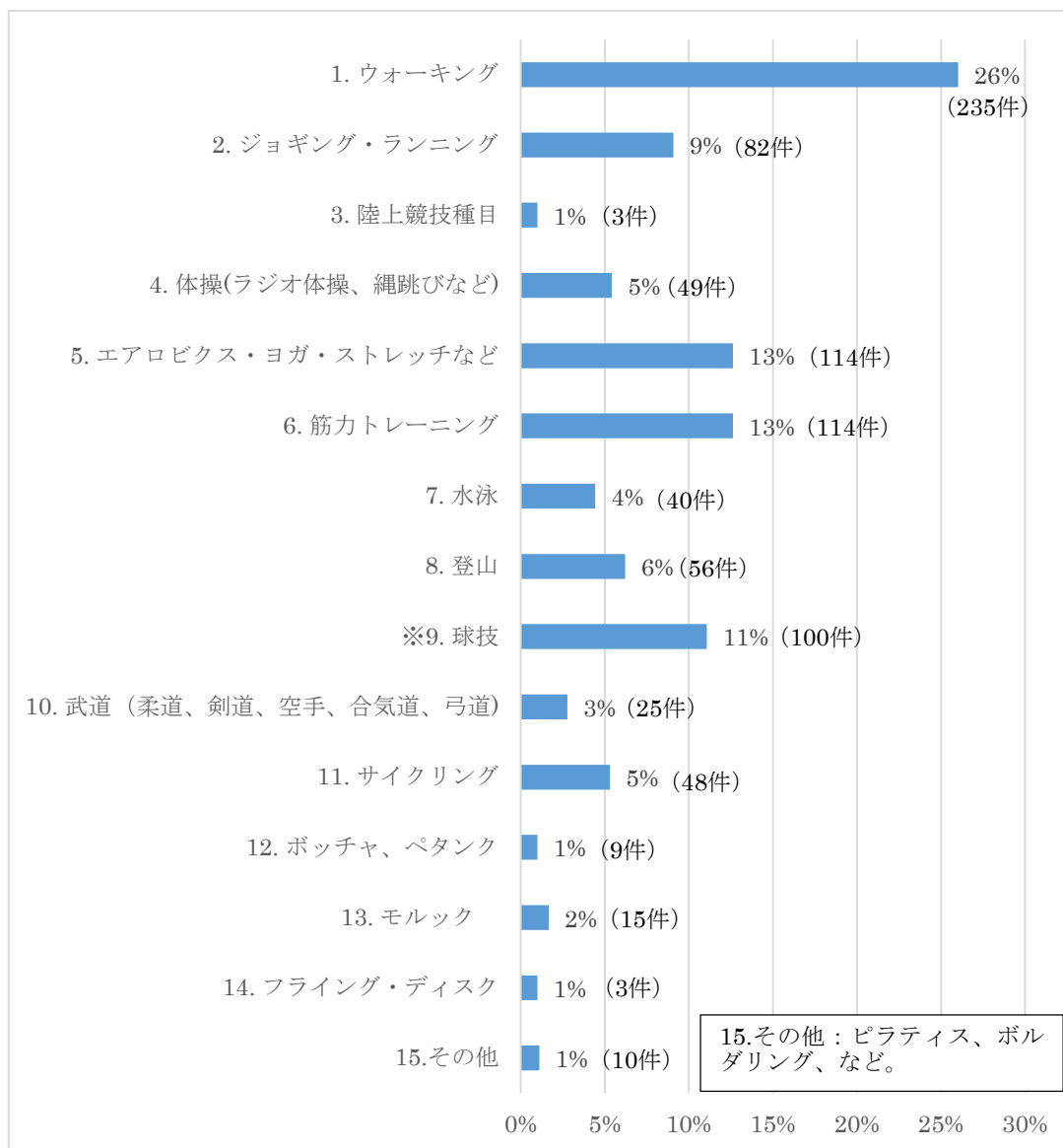
運動を行うきっかけとしては、「身近に運動ができる施設や場所があること」が最も多く、次いで「家族や友人からの誘い」となっていることから、スポーツを行うきっかけを提供することで、スポーツを行う可能性が高い人が多いことが伺えます。

アンケート問 1 3. 運動・スポーツを始めるのに必要なきっかけはなんだと思いますか？



また、今後行いたいスポーツとしては、ウォーキングやエアロビクス等が多くなっており、気軽な運動から始めることを望んでおり、健康の維持増進を主な目的としていると考えられます。

アンケート問14. 今後やってみたい運動・スポーツはありますか？

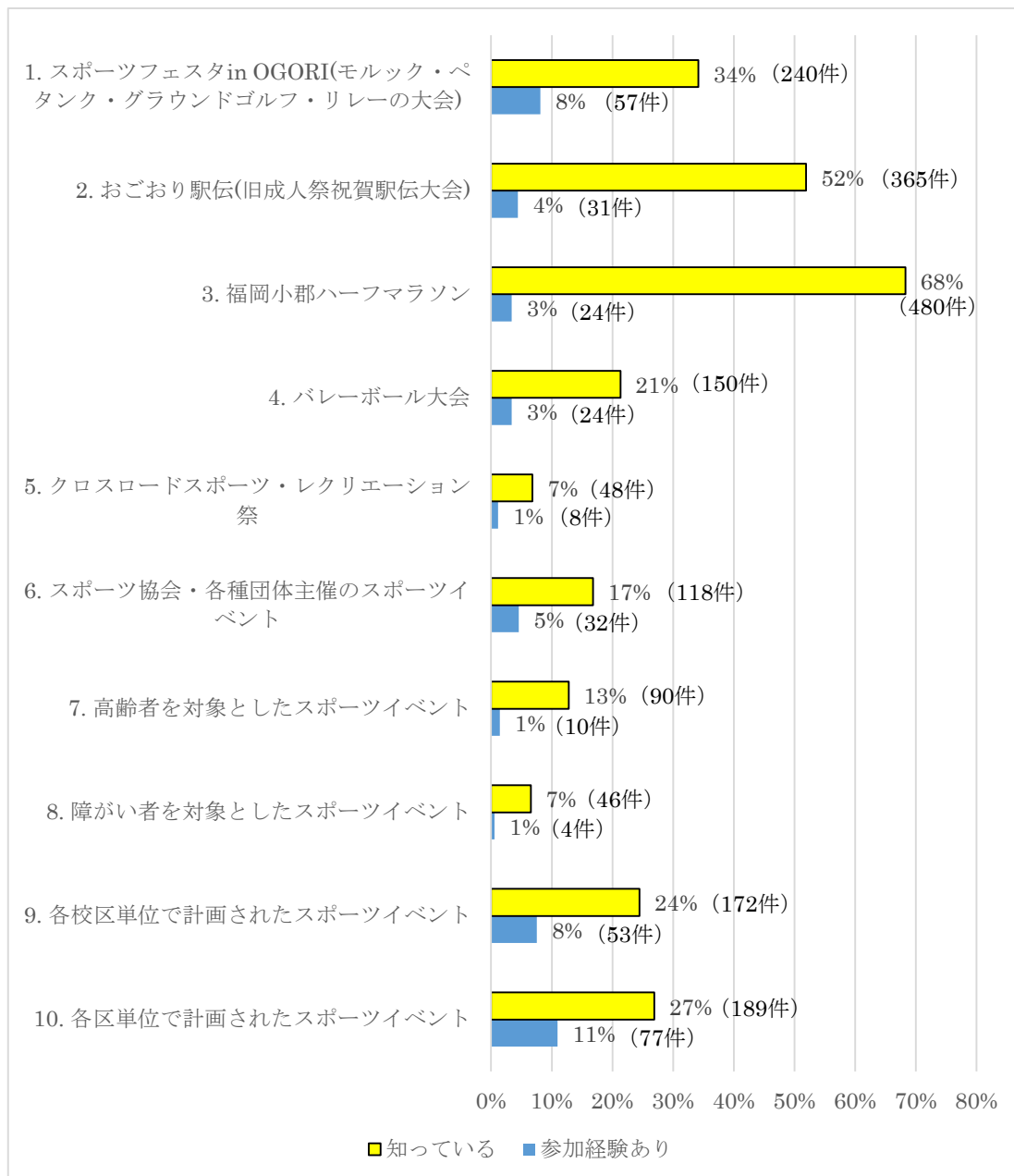


上記※9. 球技は、「野球、バレーボール、バスケットボール、サッカー、バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ、グラウンドゴルフなど」

市が実施しているスポーツ事業に関しては、福岡小郡ハーフマラソンの認知度が最も高く、次におごおり駅伝（旧成人祭祝賀駅伝大会）などが続きます。

しかし、市が実施しているスポーツ事業の認知度は高いものとは言えないことから周知活動を改善する必要があります。

アンケート問 15. 小郡市内で行われているスポーツイベントを知っていますか？また、それに参加したことがありますか？



スポーツ施設の利用度は、小郡市陸上競技場が最も高くなっているほか、小・中学校の体育施設や各地域運動広場の利用も多く、地域スポーツの拠点として利用されていることが分かります。

施設の満足度としては、小郡市陸上競技場が最も高く、最も満足度が低い

は小郡市体育館となっています。また「整備・改修が必要な施設」という項目でも建築から50年が経つ小郡市体育館の老朽化に対する意見が多数挙げられています。

市民アンケート結果や、これまでの本市のスポーツ推進の取り組み、そして各種スポーツ施設の使用状況や施設の管理状況を総括し、本市のスポーツ推進における課題をまとめてみました。

① スポーツへの関心（活動へのモチベーション）が二極化する傾向がある。

- ・健康や体力の維持増進のために積極的に活動を取り入れている人
- ・活動自体に興味を示さず、活動の意欲が低下している人

地域（校区や区など）で企画しているスポーツに対する住民の姿勢が二極化（積極的な姿勢と消極的な姿勢）が見られ、地域コミュニティに対する向心力も低下傾向にあることから、地域のきずなをつくるツールのひとつとしてのスポーツの実施が大変厳しい状況にあること。

② 社会全体で高齢化が進んでおり、その結果活動するメンバーが減少傾向にあることに加え、活動を支える人の数も減少傾向にある。

③ 小学校就学前の幼児が屋外で遊ぶ機会が減り、遊びを通じての体力づくりやルールを学ぶ機会が少なくなっている状況にあること。

④ スポーツ施設については、小郡市体育館をはじめとして、老朽化している施設があることや、大きな大会を実施した場合に、観覧するスペースや更衣室等が不十分であること。また、ユニバーサルデザインの導入やバリアフリー化が十分でない等の課題があること。

⑤ 小・中学校体育施設の利用も多く、地域でのスポーツ活動の場の提供という観点から改めて予約や使用料等の支払い方法などについて、デジタル化を図る必要があること。

⑥ 市（各課）が実施（担当）するスポーツ事業について、それぞれ認知度が低く、参加を促すための方策の多角的な検討が必要であること。

以上の6点が市民アンケート結果や、各種スポーツ施設の活用状況・スポーツ活動を支援する中からの課題として浮かび上がっています。

（2）小・中学生アンケートより

小・中学生アンケートについては、市内の全公立小・中学校の小学5年生593人及び中学2年生557人に協力をお願いし、令和5年度に実施しました。その結果、小学5年生548人（回答率92.4%）、中学2年生484人（回答率

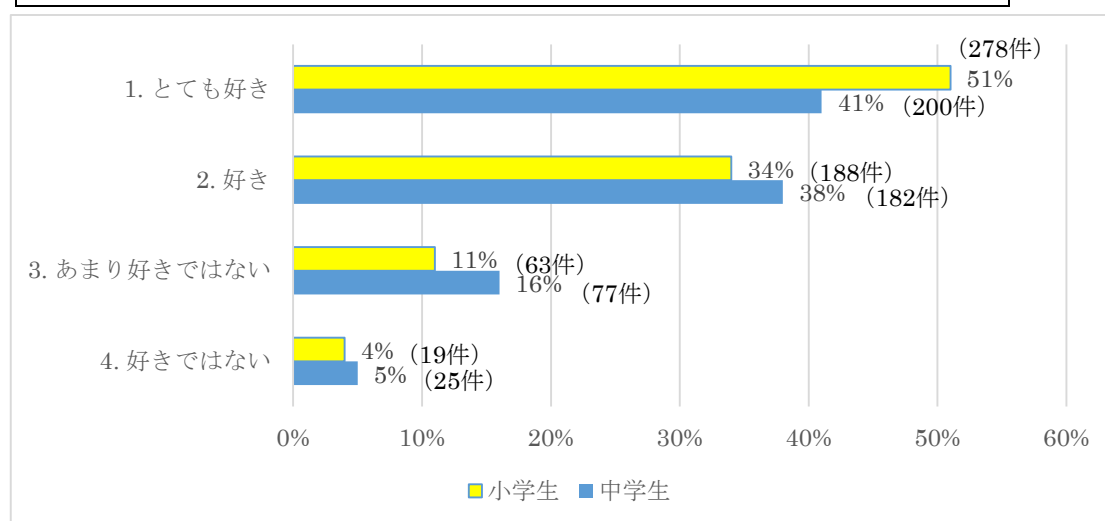
86.9%) から回答がありました。

約3年間に渡り新型コロナウイルス感染拡大防止の措置での活動自粛の期間があった中で、児童生徒の運動に対する意識がどうであるかの確認ができました。

『運動への係わり』

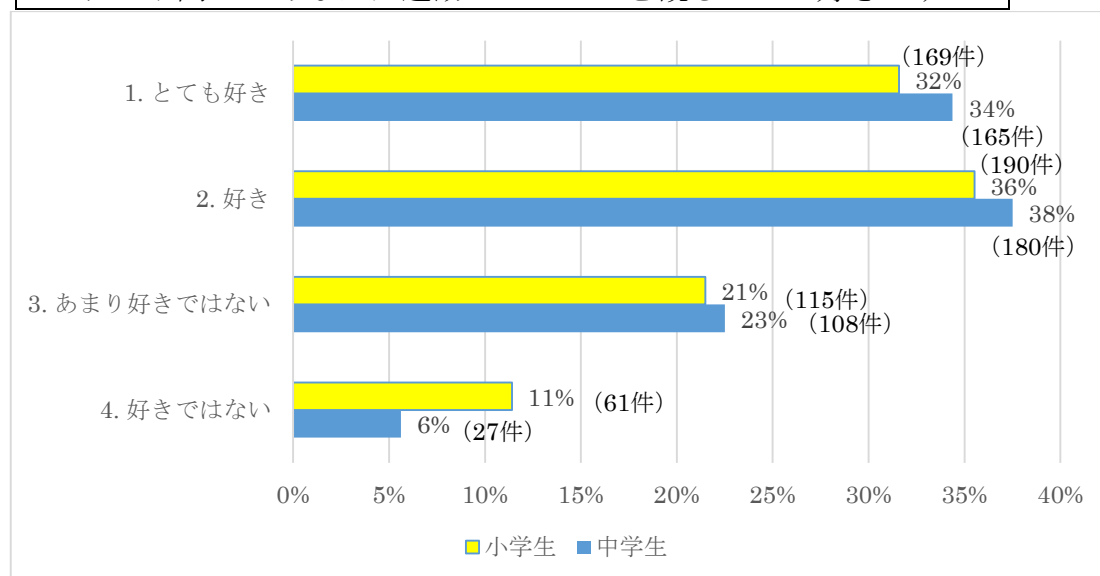
「運動・スポーツをすることが好き」と答えたのは、小学生で85%、中学生で79%でした。

アンケート問2. あなたは運動・スポーツをすることが好きですか？



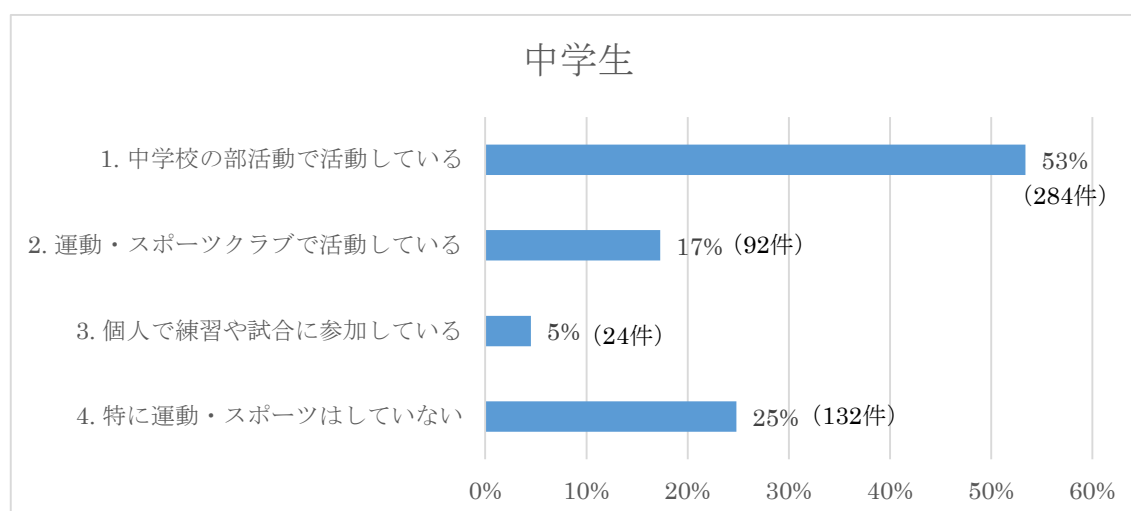
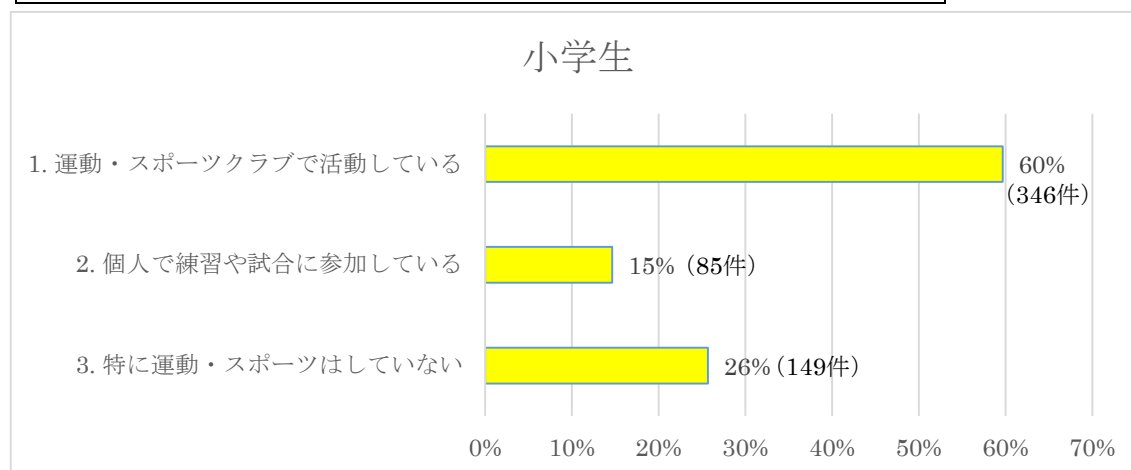
「運動・スポーツを観ることが好き」と答えたのは、小学生で68%、中学生で72%でした。

アンケート問3. あなたは運動・スポーツを観ることが好きですか？



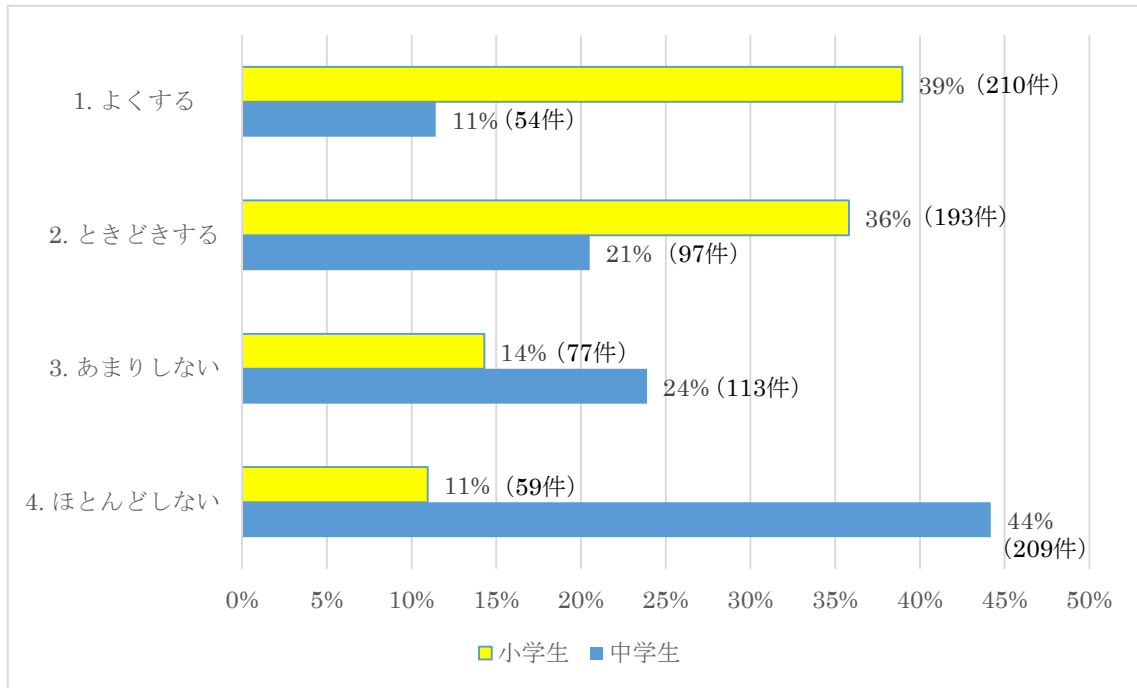
これらの結果と同様な数字として、「特に運動はしていない」と答えた小学生が26%、中学生が25%で、運動やスポーツの好き嫌いがそのまま運動量に反映した形になっています。

アンケート問5. あなたは何か運動・スポーツをしていますか？



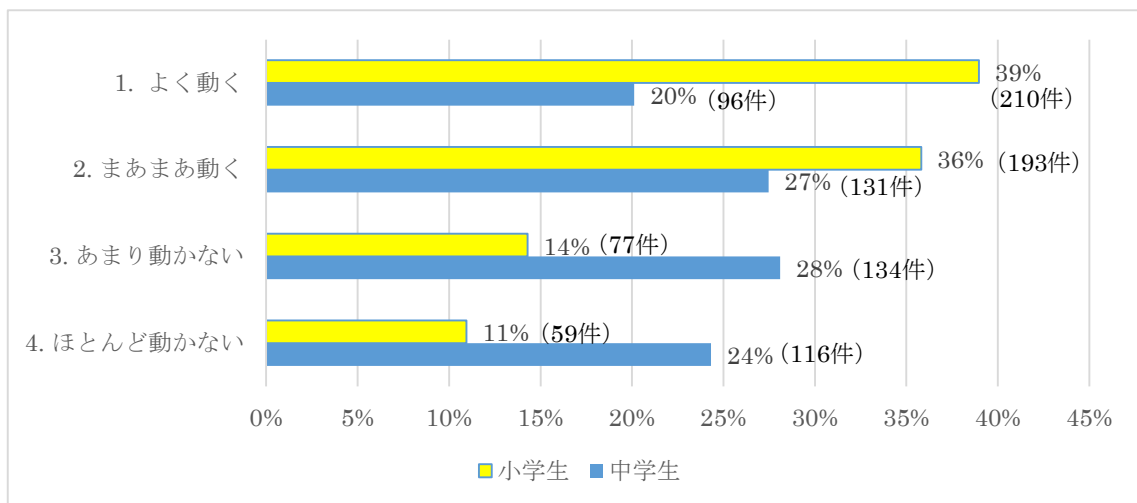
また、中学生は「学校での自由時間（昼休み等）にほとんど運動しない」が44%と、部活動やスポーツに係る習い事以外では、十分にスポーツや運動に携わっていないことが分かります。

アンケート問6. あなたは学校での自由時間に運動やスポーツをしますか？



「学校から帰った後運動・スポーツをするか」の質問に対しても、小学生の75%がすると答えたのに対して、中学生では47%となっています。中学生になると部活動で体を動かす機会があることから、小学生とは異なる傾向になっていると考えられます。

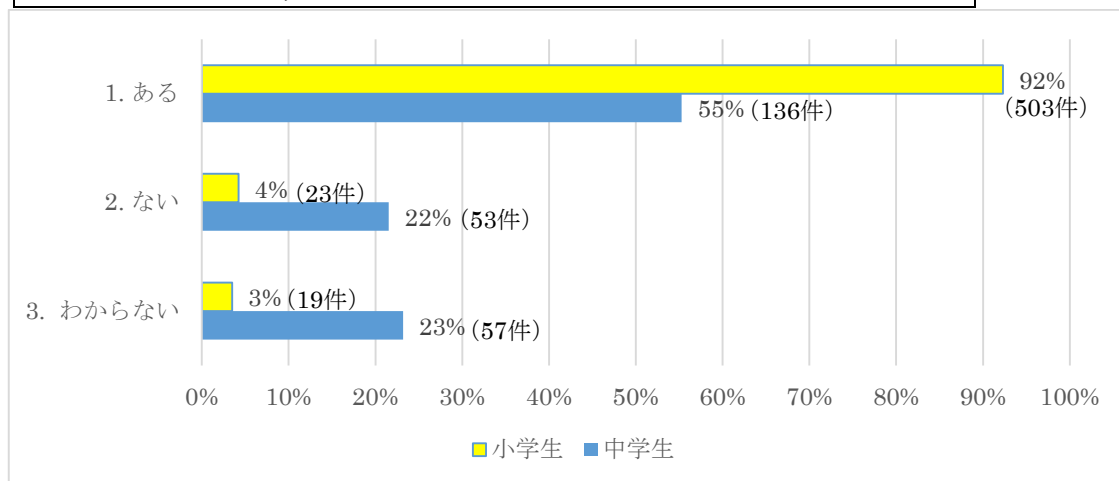
アンケート問7. 学校から帰って来たあと体を動かしたりスポーツをしたりすることはありますか？



『運動やスポーツをする環境』

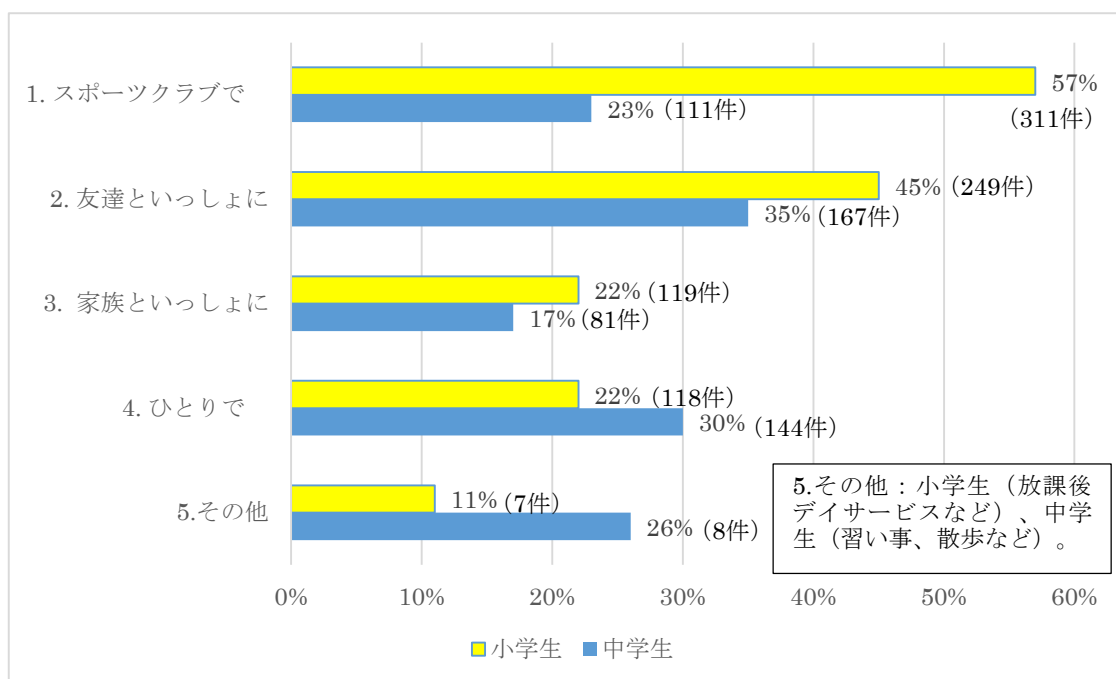
「自宅の周りで運動やスポーツができる場所はありますか」の問いには、あると答えたのは小学生が92%、中学生が55%となっており、自宅の庭や自宅周辺・近所の公園等で運動やスポーツをしている（＝遊んでいる）ことが分かります。

アンケート問8. 家のまわりで運動ができる場所はありますか？



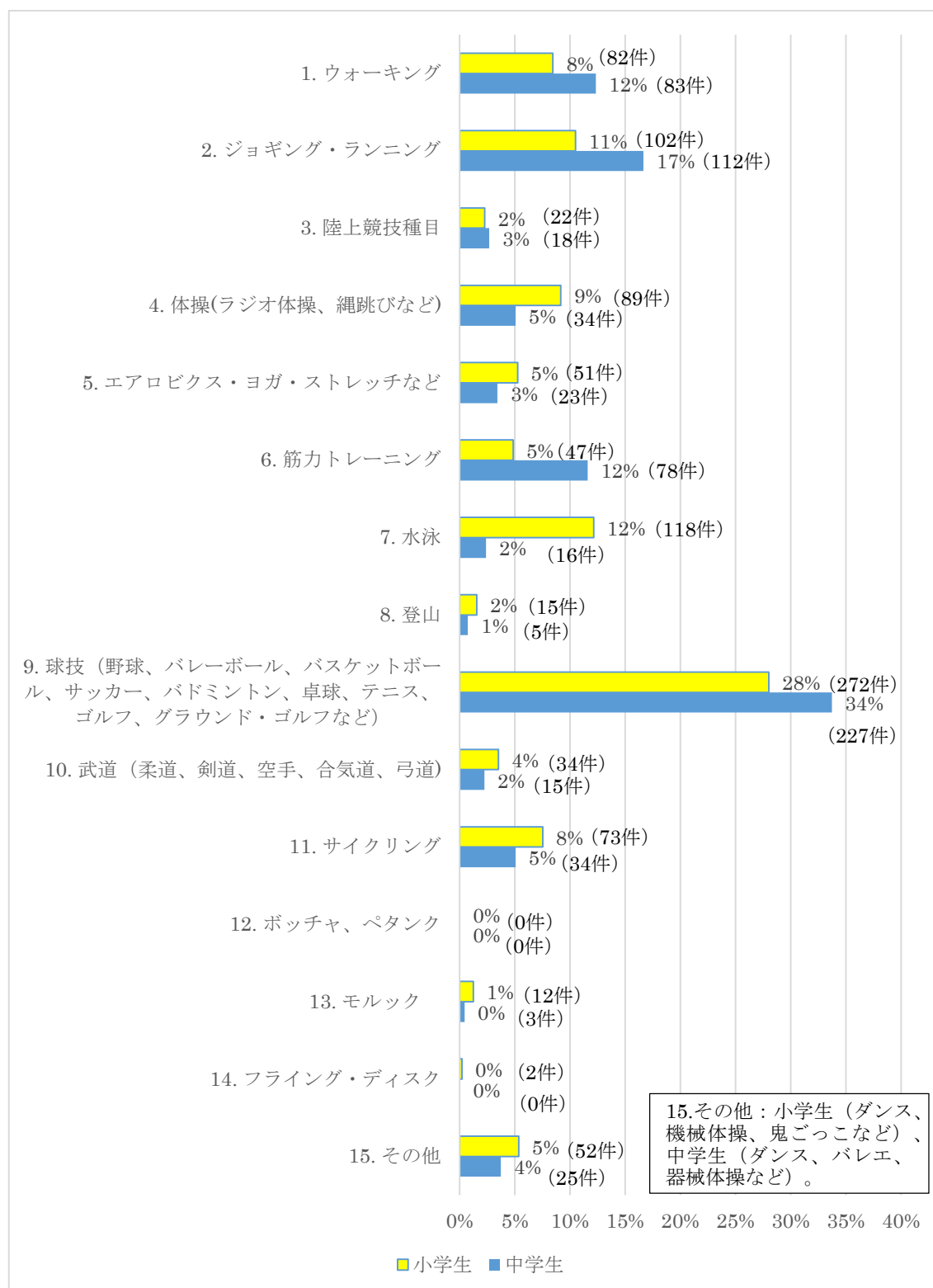
小学生では「スポーツクラブで」「友達といっしょに」活動が多く、中学生では「友達といっしょに」「ひとりで」活動が多くなっています。

アンケート問10. どのようなかたちで運動やスポーツをしていますか？



種目としては、球技やウォーキング・ジョギング・ランニングが主です。

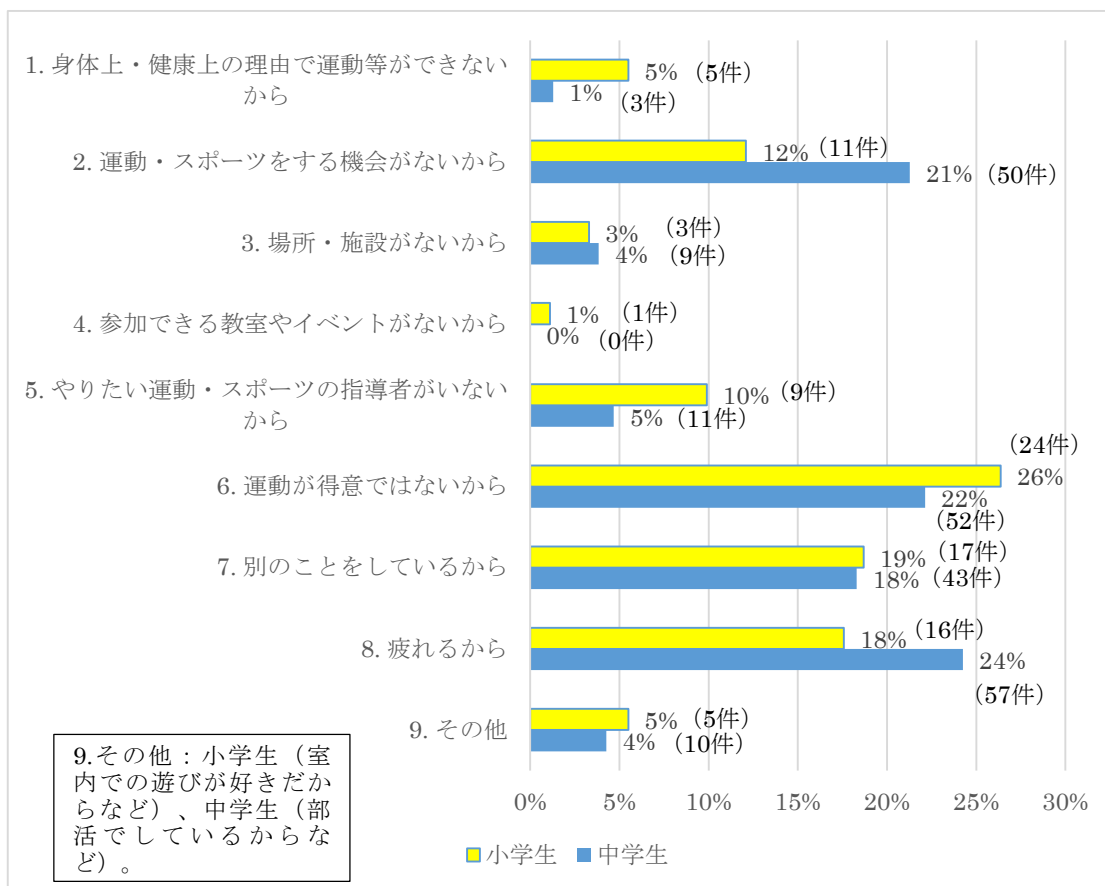
アンケート問 1 1. どのような運動・スポーツを行いますか？



『運動やスポーツに取り組む意識』

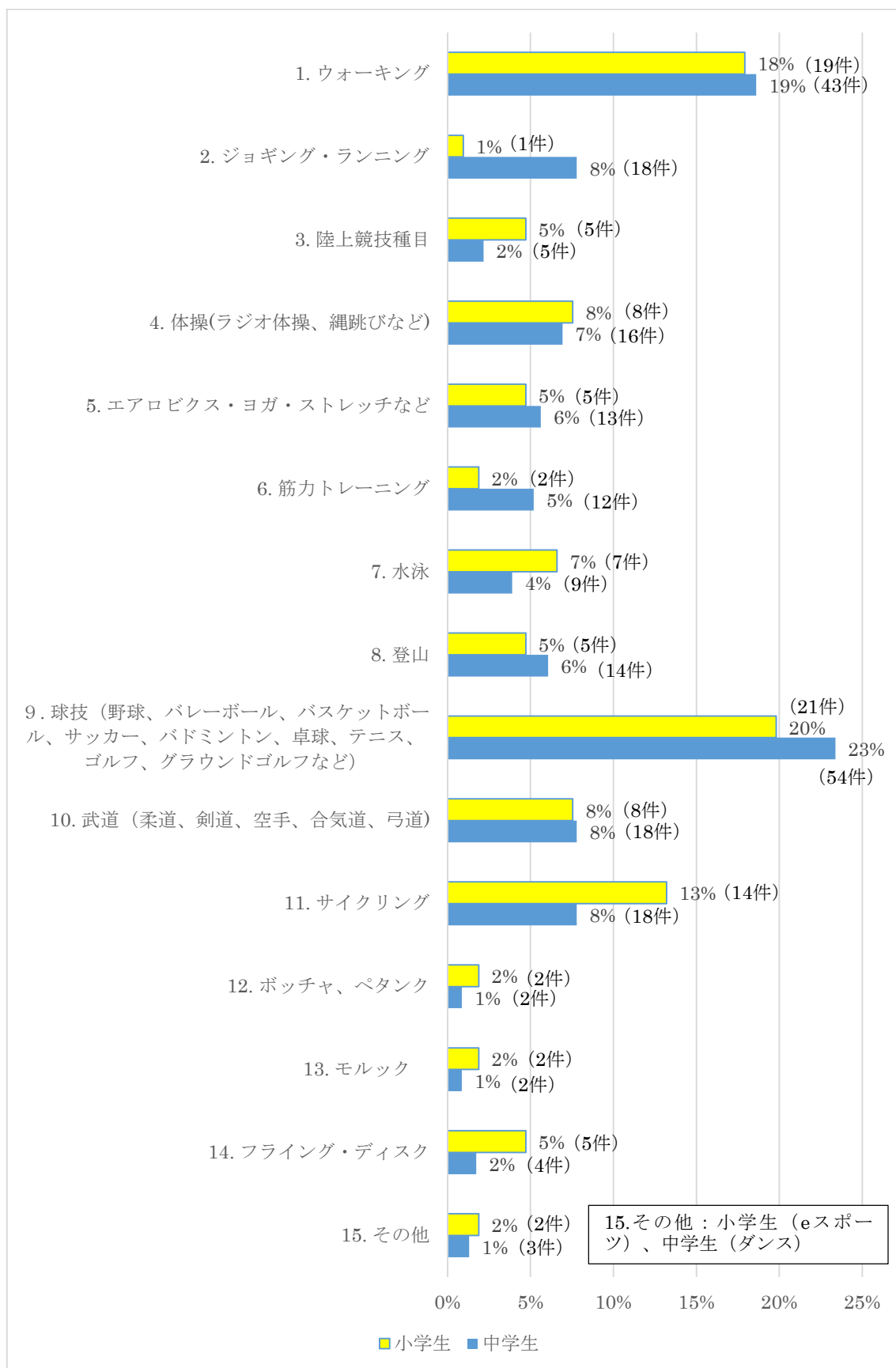
運動やスポーツをしない・ほとんどしないという児童生徒に、運動やスポーツを行わない理由やどうしたら始められるかを尋ねた項目では、「運動が得意ではないから」、「疲れるから」が多くなっています。

アンケート問 1 2. 運動・スポーツを行わない(行わなかった)理由は何ですか？



今後やってみたい運動・スポーツを尋ねたところ、小・中学生ともに、「球技、ウォーキング」が多くなっています。

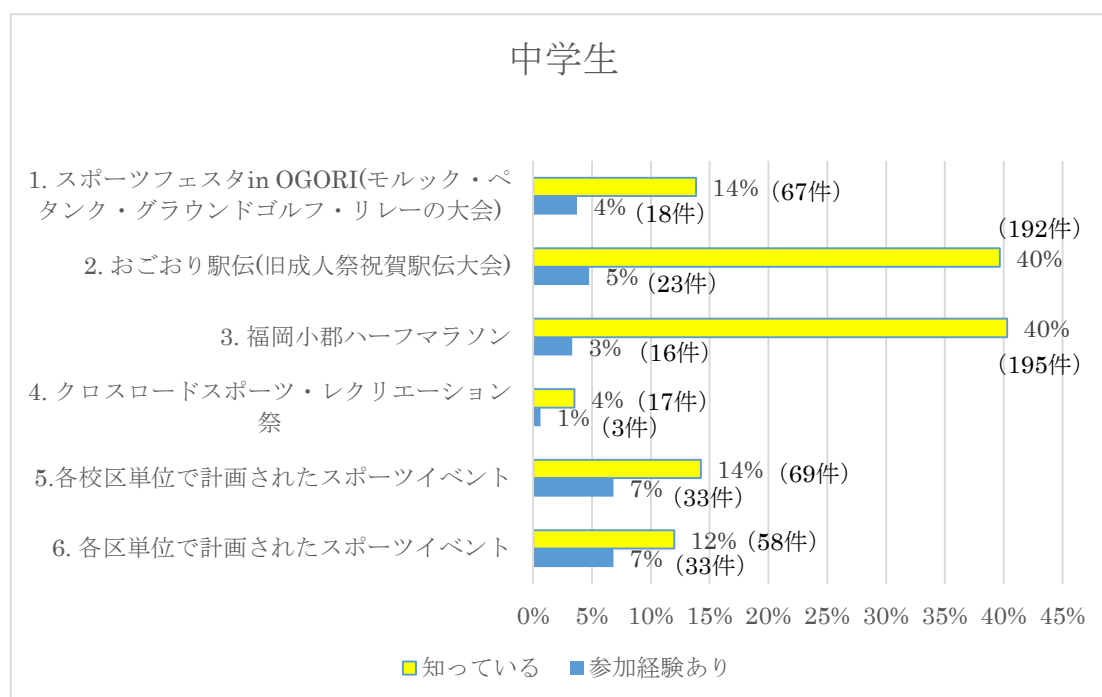
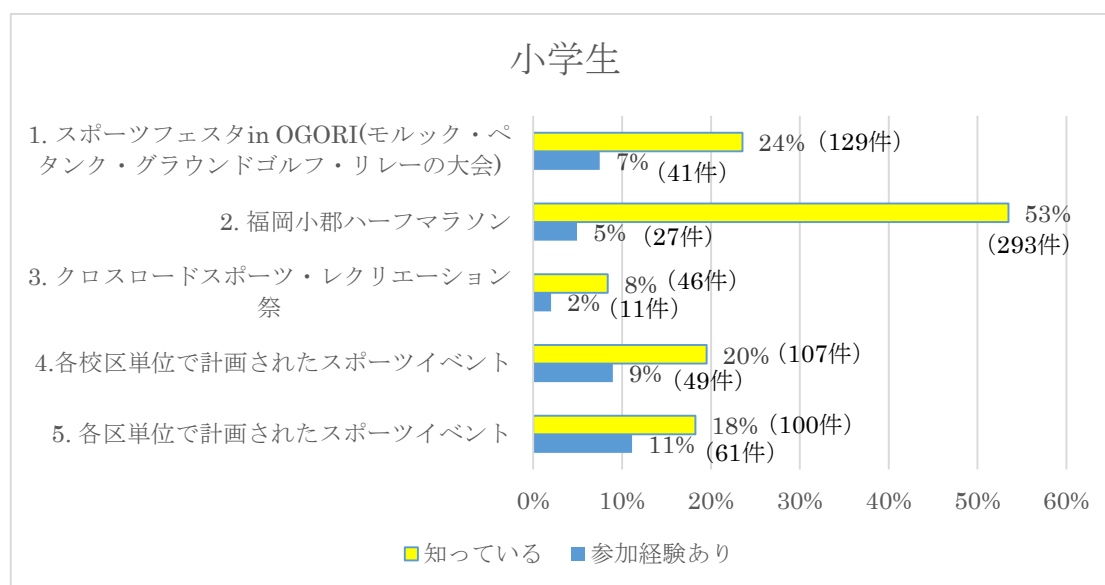
アンケート問 1 4. 今後やってみたい運動・スポーツはありますか？



『学校以外でのスポーツ行事への意識』

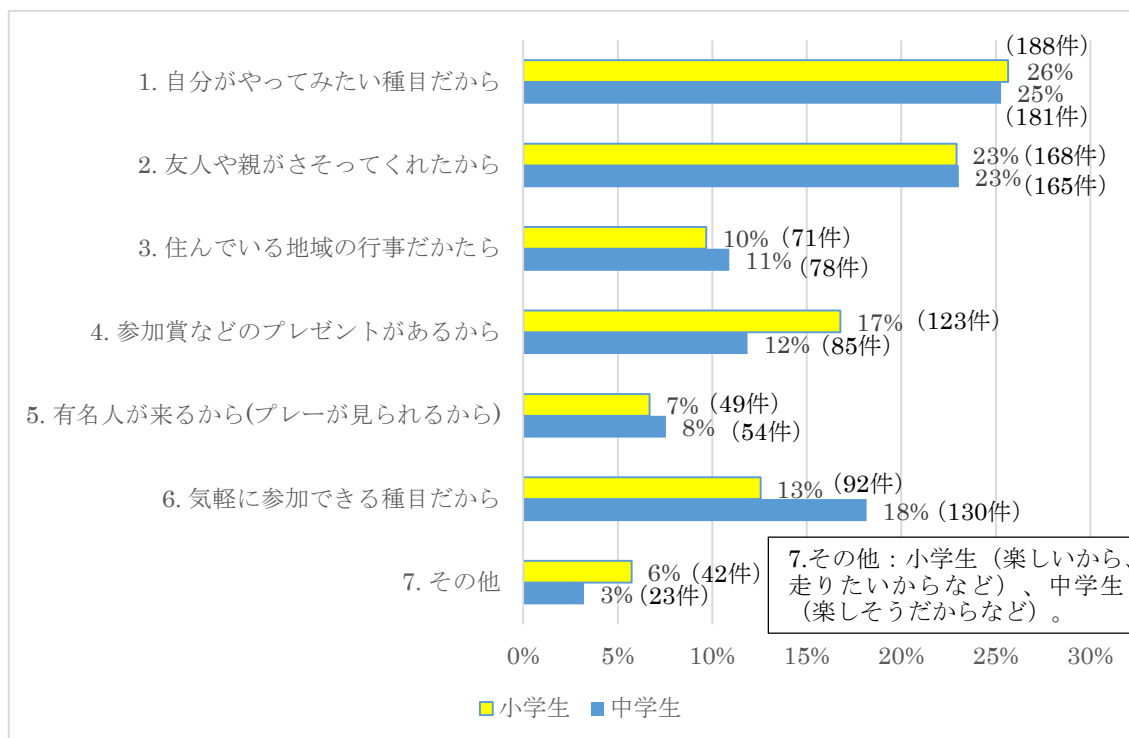
本市や広域に参加を呼び掛けているスポーツ行事に対する認知度については、小・中学生ともに福岡小郡ハーフマラソンが多く、ジュニアスポーツフェスティバルとふれあい運動会をリニューアルしたスポーツフェスタ in OGORI、各校区・各区単位で企画・運営されているスポーツイベントについては、同様の認知度となっています。

アンケート問15. 小郡市内で行われているスポーツイベントを知っていますか？また、それに参加したことがありますか？



また、そのようなスポーツイベントに参加したいと思う要因については、「やってみたい種目だから」、「友人や親からの誘い」、「気軽に参加できる種目」という回答が多いものの「興味がない」、「参加したくない」という消極的な回答も見られます。

アンケート問 16. 各種スポーツイベントについて、参加したいと思う要因は何ですか？

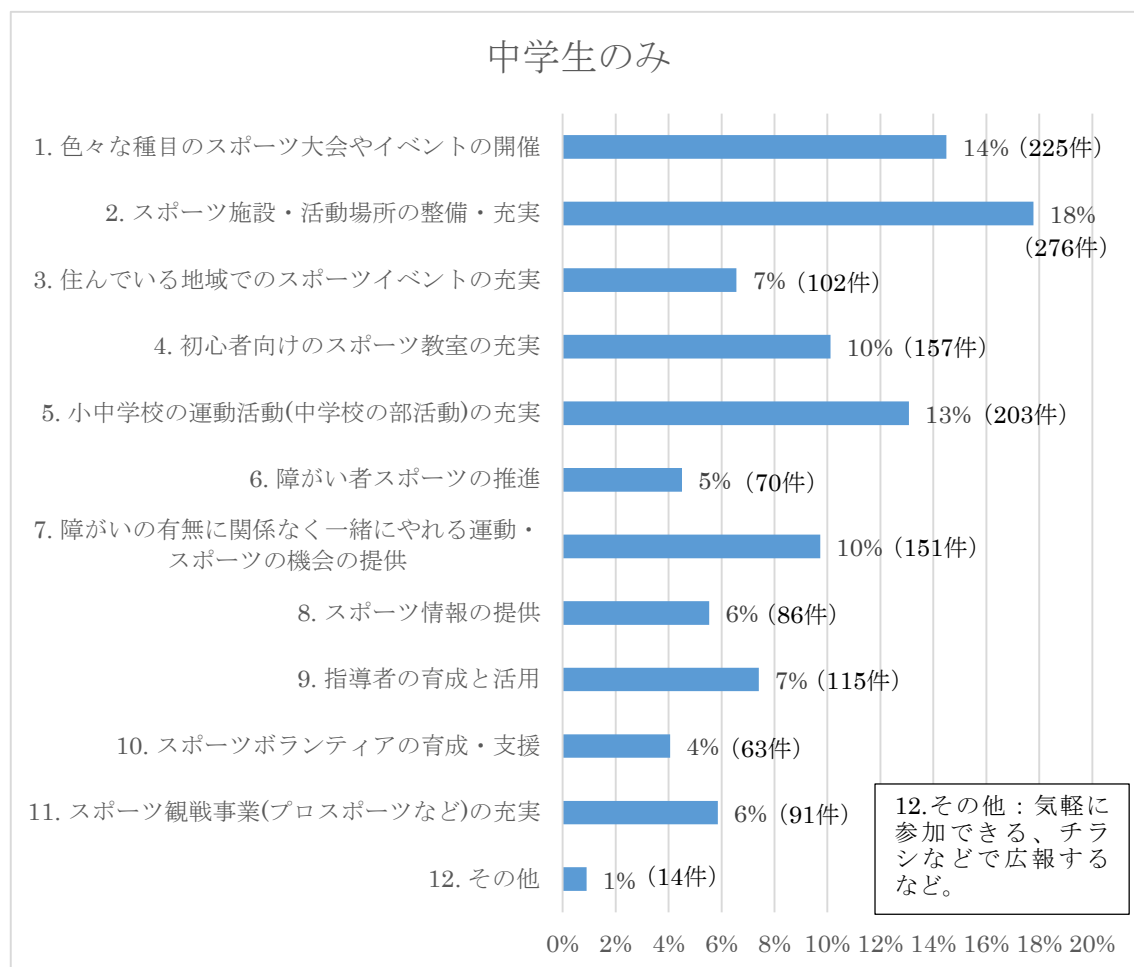


『今後のスポーツへの取組』

「本市のスポーツ活動を盛んにするためには」の問いに対しては、施設や活動場所の整備や様々なスポーツイベントの開催、学校の運動活動の充実や指導者（教えてくれる人がいる）の育成を望む意見があり、参加する（観戦する）きっかけづくりが必要であることが伺えます。

アンケート問 17. あなたは市のスポーツ活動を盛んにするために必要なことは何だと思えますか？

中学生のみ



小・中学生のアンケート結果を踏まえたスポーツ推進における課題を整理すると、次の3点になります。

- ① スポーツ活動を行っている子どもは多く、スポーツ・運動が好きだという回答が多いが、主に運動部活動や社会体育等でのスポーツ活動が中心となっていて、個別にスポーツ活動に取り組む姿勢があまり多くない。子ども世代のスポーツ推進を行うためには、運動・スポーツ活動に対する興味・モチベーションを高揚する必要があること。
- ② 区や校区・市が実施しているスポーツ事業への参加率を上げるため、各種イベントの周知活動を強化しつつ、かつ参加しやすい態勢や種目内容等の見直しを行い、体験し、つながる楽しさを実感させる必要があること。
- ③ 部活動を取り巻く環境が大きく変わろうとしている中、学校と地域の連携をつくり、子どものスポーツ活動が途切れることなく続けられる持続可能な

環境を学校、関係各課およびスポーツ団体と十分協議しながら作り上げていく必要があること。

(3) 団体アンケートより

(一社) 小郡市スポーツ協会および加盟団体であるスポーツ競技団体に対して、アンケート(令和6年5月25日～6月30日)を行い、13団体から回答がありました。まとめると次のとおりです。

① 団体の活動状況

各団体では、会員の状況に応じて練習を定期または不定期に行い、大会を企画・運営したり、各種大会に参加したりしている。

② 団体のスポーツ・レクリエーション活動の目標

健康・体力づくり、仲間づくりが主で、楽しく活動することを目指している。

③ 団体の課題

会員の高齢化、新規の入会者が少ない、種目の指導者が不足している。

④ 市のスポーツ推進に係る意見

市民が子どもから高齢者までスポーツに親しみ、健康づくりや生きがいづくりができるよう努める。

区、校区まちづくり協議会などの関係団体に対してアンケート(令和6年7月10日～8月2日)を行い、51団体から回答がありました。まとめると次のとおりです。

① 団体の活動状況

子どもから高齢者までが参加できる事業(ペタンク大会、グラウンド・ゴルフ大会など)を実施している。

② 団体のスポーツ・レクリエーション活動の目標

健康づくり、参加者(住民)の親睦、子どもから高齢者までの世代間交流。

③ 団体の課題

少子高齢化、参加者が少ない、指導者・役員(企画運営協力者)などの後継者不足。

④ 市のスポーツ推進に係る意見

少子高齢化により参加人数の確保が難しいので、市事業は不要。

区単位で参加できる事業が必要(実施の要望)。

楽しんでできる軽スポーツを、継続して実施していきたい。

5 スポーツ推進に関する今後の取り組み

スポーツに係る本市の課題やアンケートの結果を踏まえ、活動推進に向けた今後の取り組みの方向性を人・活動・仕組み・施設に分類し整理します。

(1) 人に関すること

① スポーツへの参加意欲を高める取り組み

スポーツに対する意識は高いがスポーツを行っていない3割の人の、スポーツ等を行わない理由を見ると、何かしらのきっかけがあればスポーツに取り組めると回答されています。家族や知人からの誘いは有効で、参加基準等のハードルを低くし、活動する楽しさを味わってもらうことが参加意欲の向上につながると考えます。

② 高齢化・少子化に伴うスポーツ人口の減少への対応

全国的に少子高齢化が進んでおり、日本社会は「ゆるやかに縮小していく社会」と言われている中で、各種行事や活動も前時代的な盛大な規模の行事は見直す時期にきていると考えます。子どもから高齢者までの幅広いスポーツについて、参加者数だけでなく参加者の満足度をより高め、企画・運営に携わる人を育てていく方向で見直しを考えていくことも必要です。

(2) 活動に関すること

① スポーツを行う目的や形態の多様化への対応

スポーツには、体力の向上や健康づくりに加えて、地域コミュニケーションの形成や世代間交流といった、社会的な目的も求められるものですが、市民がスポーツに取り組む目的が多様化している中、コミュニティ等への向心力が低下している現状があります。市民同士の絆を深めるためのレクリエーション活動への参加を企画・推進していくことが求められています。

② 子どもたちのスポーツ活動への対応

将来を担う子どもたちのスポーツに対する意識は高い傾向にあります。生涯スポーツの基礎は、年少期のスポーツへの関わり方と強く関連することから、子どもたちが充実したスポーツ活動に接することができるよう、学校・幼稚園・保育所（園）・市スポーツ協会（スポーツ団体）および関係団体と協力した取り組みと支援が必要です。

また、スケートボードやBMX、eスポーツなどの新しい視点でのスポーツ分野についても推進していきます。

(3) 活動を支援する仕組みに関すること

① スポーツに関する情報発信の強化

本市が実施している、スポーツ事業についても、認知度にバラつきがある状況です。様々な形で市民への情報発信の工夫が必要です。

また、施設利用についての手続きのデジタル化なども、施設の利用促進を目指す仕組みとして取り組みを進める必要があります。

② 各種スポーツ団体等の育成、支援

市スポーツ協会に加盟している各種スポーツ団体においても競技人口の減少が見られ、各々で活動紹介等の情報を発信することが必要です。また、市スポーツ協会と協力し、指導者やその後継者を育成していくという視点からも、部活動の地域連携・地域移行に係る取り組みについても各団体と連携しながら進めていく必要があります。

③ 市スポーツ推進委員の活動

小郡市から委嘱を受けたスポーツ推進委員による、各校区や区などへのスポーツの紹介をはじめ、企画・運営の指導を通じたスポーツの楽しさの共有、スポーツの企画・運営ができる地域人材の育成などの取り組みを進める必要があります。

(4) 施設の活用に関すること

① 小郡運動公園、小郡市体育館

屋外競技の拠点となるべき小郡運動公園については、市民がスポーツに親しめる場とすることで多くの人々が気軽に利用できる機会の拡充を図ります。

屋内競技の拠点となるべき体育館については、老朽化や規模の不足が課題となっています。新アリーナ施設は、スポーツの拠点としてだけでなく、防災拠点施設としての機能も備え、ニュースポーツ等の普及が可能で、かつ様々な人的交流の拠点となるよう準備を進めています。

② 地域運動広場、学校施設

各地域運動広場や学校施設の利用ニーズも高いことから、市全体におけるスポーツの位置付けを再整理し、ソフト及びハードの両面から整備を進めていく必要があります。

③ デジタル化

利用に関する手続きなどをデジタル化する方向で取り組みを進める必要があります。

6 基本理念

「暮らしの中にスポーツが息づき、

健やかさとつながりで笑顔あふれるまち・おごおり」

「スポーツ」とは、勝ち負けや記録等を競う、いわゆる競技スポーツのみを表すのではなく、健康の保持増進、体力の向上、心身の健全な発達を図るために行われる身体運動のほか、レクリエーションとして行われる身体運動や、ジョギング・ウォーキングといった気晴らしや楽しみを目的とした身体活動など幅広い概念で捉えます。（「福岡県スポーツ推進計画」より）

市民のスポーツに対する意識は総じて高く、特に新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みが全国的に進められた約3年間の中で、第1期の推進基本計画の策定時にも増して日常的にスポーツ（ウォーキングやランニングなど）を生活の中に取り入れている姿が多くみられるようになった反面、様々なスポーツに対して無気力になっている人があることも事実です。（スポーツに係るモチベーションの「二極化」）

そこで本計画では、第1期の基本理念「暮らしと密着したスポーツのまち・おごおり」を発展的に受け継ぎ、第6次小郡市総合振興計画が目指す“「共感、共働、共創」による共生社会”を具現化するため、第2期の基本理念を「暮らしの中にスポーツが息づき、健やかさとつながりで笑顔あふれるまち・おごおり」とし、暮らしの中にスポーツが位置づけられ（スポーツの日常化）、心と身体を健康を保持・増進し（健康・体力の保持・向上）、スポーツを「する」・「みる」・「ささえる」ことをとおして多様な交流の場を創出し、市民がつながり支え合う笑顔あふれる地域共生社会づくり（コミュニティづくり）を推進します。

7 基本方針

柱1 スポーツを楽しもう

- ①多様な主体による多様なスポーツの機会を設け、より多くの市民がスポーツを行える取り組みを創出します。
- ②スポーツを日常化することにより、健康・体力の維持増進を目指します。
- ③スポーツを「する」・「みる」・「ささえる」ことで楽しむ機会を増やします。
- ④プロスポーツチームと触れ合う機会を増やします。

柱2 スポーツでつながろう

- ①関係各課、関係団体と連携して、スポーツを通して市民同士のつながりを広め・深める活動を支援していきます。
- ②コミュニティ推進課と連携し、コミュニティづくりをスポーツで支援します。
- ③福祉課と連携し、障がい者のスポーツを支援します。
- ④長寿支援課と連携し、高齢者のスポーツを支援します。
- ⑤こども家庭支援課と連携し、子どもたちや子育て世代のスポーツを支援します。

柱3 スポーツを支え、生かす仕組みを充実させよう

- ①市スポーツ協会を中心とした各種スポーツ団体の活動を支援するとともに、子どもたちをはじめ市民が広くスポーツに取り組むことができるように支援します。
- ②市スポーツ推進委員会を中心に、各校区・区のスポーツ委員等の活動を支援し、スポーツをする人を増やすとともに、スポーツを支える人材を育成していきます。

柱4 スポーツ環境を整えよう

- ①屋外スポーツの拠点として小郡運動公園を、屋内スポーツの拠点として小郡市体育館を位置付け、機能強化や利用促進を図ります。
- ②地域運動広場や学校施設の整備を進めます。
- ③より多くの市民が利用し易くなるように、予約システムの構築や使用料支払い等の電子化など、スポーツにおけるDX化を進めます。

8 施策体系

	基本方針	方針の柱	方針の内容
柱1	スポーツを楽しもう	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体による多様な活動創出 ・健康の維持増進 ・して、みて、ささえて楽しむ ・集って楽しむ ・プロスポーツチームとのふれあい
柱2	スポーツでつながろう	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動の支援 ・障がい者スポーツの支援 ・高齢者スポーツの支援 ・子ども、子育て世代のスポーツの支援 ・スポーツによる外国人とのつながり
柱3	スポーツを支え、生かす 仕組みを充実させよう	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ協会との連携 (各種競技団体等の育成) ・地域(校区、区)の人材育成 ・部活動の地域連携・地域移行に向けた支援 ・スポーツ推進委員による活動支援
柱4	スポーツ環境を整えよう	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・市内スポーツ施設の整備 (バリアフリー化及び公園等の活用を含む) ・スポーツに係るDXの推進

9 基本施策

柱1 スポーツを楽しもう

基本施策1

様々な年代の人たちが、校区・**区**・団体・家族や個人で、親睦や健康づくりなど様々な目的を持ってスポーツに親しむ機会を創出します。

プロスポーツチームと触れ合うことでスポーツを楽しむ機会を増やします。

柱2 スポーツでつながろう

基本施策2

スポーツを通じて、年齢、性別や障がいの有無に関わらず**(インクルーシブスポーツ)**、参加者同士、参加者と支援者とのつながりを深めます。

柱3 スポーツを支え、生かす仕組みを充実させよう

基本施策3

(一社)小郡市スポーツ協会・同協会加盟の各種スポーツ団体、各校区スポーツ関連部会・各区のスポーツ委員等の活動を支援します。

また、子どものスポーツ環境づくりの支援も進めます。

さらに、小郡市スポーツ推進委員による地域スポーツ活動支援を通じて、地域スポーツ活動を支える地域の人材を育成します。

柱4 スポーツ環境を整えよう

基本施策4

市体育館をはじめ、地域運動広場や社会体育で活用する学校施設について、ユニバーサルデザインの整備及びバリアフリー化を進めます

基本施策5

スポーツ施設使用の予約や利用状況等の連絡や使用料支払いなどについて、インターネットを活用したデジタル化を進めます。

10 計画の推進

本計画を進めるにあたっては、年度ごとに具体的施策を企画立案し「Plan(計画)」、実施「Do(実行)」、その状況の評価「Check(評価)」、次年度に向けて課題や具体的な取り組みを検証し改善「Action(改善)」します。また、具体的施策を実現させるため、庁内の関係課で連携した取り組みを進めます。